

2023 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
人間健康学部 人間健康学科	助教	正岡 元
最終学歴	学 位	専門分野
広島大学大学院総合科学研究科博士課程 後期単位取得退学	博士 (学術)	情報通信ネットワーク

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画

【理念】

知識そのものではなく、それらの知識を見つけ出す、あるいは作り出す方法を学生が身に着けられるような教育を目指す。

【目標】

知識そのものではなく、それらの知識を見つけ出す、あるいは作り出す方法を学生が身に着けられるような教育を目指す。中でもコンピュータの演習科目では、コンピュータを利用する意義の理解を深めることを目標とし、技術だけでなく技術を使って何をしたいかを意識することを重視し、操作方法の習得に偏らないようにする。

【方針】

毎回の講義の冒頭で講義の意義、当該回の内容について示し、科目を学ぶ意義を確認することで目的意識を持たせる。

基礎演習ではグループディスカッションの回を設け、学生同士で会話をする時間を通して友人関係の構築や学生同士での相談などができるような関係づくりを行っていく。今後登校した際にすぐに友人関係を築き、キャンパス生活を始められるような環境作りを他の教員とも協力し合って行っていく。

【計画】

アカデミックスキルズでは、毎回配布資料を基に文法や構文などの解説を行い、事後学習としての課題や、授業の翌週に小テストを実施して理解度を確認する。さらにその翌週に結果を返却して内容の解説を行い、記憶の定着を図る。また定期的に過去の小テストの振り返りテストを行い、理解度を再確認する。

プログラミング演習および OS とプログラミングでは、プログラムを作成して何をしたいか考える機会を設け、かつ実際に動くプログラムを小課題として多く取り入れることで、達成感やものづくりの楽しさを体感できるようにする。

【担当科目】

(前期)

アカデミックスキルズ、PC・ネットワーク入門、AI リテラシー、基礎演習 I

(後期)

プログラミング演習、OS とプログラミング、データリテラシー I、基礎演習 II

○教育方法の実践

方針に沿って計画通りに実施したほか、授業内でアンケートを取るなどしてフィードバックを得て、授業の進行や内容について修正し、学生の理解度の向上や、より興味に沿った授業内容の実現に努めた。

○作成した教科書・教材

- アカデミックスキルズ 授業用資料第1回～第15回（蒔田先生と共著）
- アカデミックスキルズ 配布資料第1回～第14回（蒔田先生と共著）
- アカデミックスキルズ 小テスト第1回～第15回（蒔田先生と共著）
- プログラミング演習 配付資料第1回～第15回
- OSとプログラミング 配付資料第1回～第15回
- AIリテラシー 授業用資料第1回～第7回
- PC・ネットワーク入門、データリテラシーⅠ教科書『コンピュータリテラシー2024』高木先生、杉谷先生と共著

○自己評価

アカデミックスキルズでは、主担当の蒔田先生と共同で昨年度の振り返りを行い、授業内容を本学の学生に合わせて修正するなどし、昨年度より理解度を向上させることができた。資料や小テストなども改訂を行い、より必要な内容で、理解度や定着度を高める内容にできた。

その他、おおむね理念に基づいて目標を達成することができたと考える。

Ⅱ 研究活動

○研究課題

メディア授業の支援のためのLMS管理手法の研究

○目標・計画

【目標】

本学ではMicrosoft TeamsをメインのLMSとし、一部の授業ではGoogle Classroomを使用している。Microsoft Teamsでは、チームは作成されるものの、チャンネルや課題の管理は教員が個人で行う必要がある。Google Classroomでは、コースの作成も教員が行う必要がある。そこで本研究では、Microsoft Teamsのチームやチャンネルの管理や、Google Classroomのコースの管理など、教員のサポートを行うシステムの開発を目指す。

【計画】

これまでに開発してきたGoogle ClassroomおよびMicrosoft Teamsの管理ソフトウェアを基に、モジュール化を進めて機能追加を用意にする。また、全体のチームやコースの管理を行う機能を改変して、教員個人がチーム及びコースのチャンネルやメンバー等の管理を行う機能の開発を進める。

○2016年4月から2024年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

（学術論文）

（学会発表）

（特許）

（その他）

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

なし

○所属学会

情報処理学会

○自己評価

昨年度に続いて開発を継続しており、おおむね計画を達成することができた。ただし、成果を発表することができず、その点は目標を達成できなかった。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

知識や経験を活かして大学運営に貢献する。

【計画】

学内委員会および学部内ワーキンググループなどにおいて、経験や ICT に関する知識を活かして提案を行い、目標の実現に貢献する。

○学内委員等

学術情報センター運営委員会委員

○自己評価

学内委員会および学部内のワーキンググループなどにおいて、ある程度の成果を残すことができ、ほぼ目標を達成できたと考える。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

【目標】

研究成果を公表し科学の発展に貢献する。

【計画】

○学会活動等

なし

○地域連携・社会貢献等

なし

○自己評価

研究成果を公表できておらず、成果の発表が今後の課題である。

Ⅴ その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

特になし

Ⅵ 総括

講義や研究はおおむね目標を達成することができたものの、研究成果の発表ができておらず、今後の課題となる。

以 上